

# 介護老人保健施設オアシス 21

**症例概要**      利用者:女性 70代      要介護度 3

病名:パーキンソン病、神経因性膀胱炎(残尿、頻尿)

経過:神経因性膀胱炎のため、自尿があるものの残尿量が多く、尿道カテーテルを使用。2回のオアシス利用の1回目は看護、リハ連携でカテーテルの自己管理と内服の自己管理で在宅復帰。2回目の入居では尿道カテーテルの抜去に成功しご家族とも面会。コロナ禍の中でもカテーテルが外れ元気な姿を見てご家族に感動していただいた症例。

## 内 容

平成26年にパーキンソン病を発症し通院しながら自宅で独居生活をしていましたが、平成30年12月に発熱、体動困難になり緊急入院。入院先にて頻尿で転倒リスクが高いため尿道カテーテル留置となりました。その後は車椅子となり身体機能低下にて在宅復帰を目指したリハビリ目的でオアシス21に入所となりました。

オアシスへの初回入所は平成30年12月。当初より在宅復帰が目標でありましたが、尿道カテーテルの抜去が課題となっていました。オアシスでは膀胱訓練での残尿評価を行いながら2度にわたり抜去に取り組みましたが、自尿はあるものの残尿が800mlと非常に多く、すぐに再留置となりました。そのため、尿道カテーテル挿入された状態で在宅復帰ができるよう、本人への指導を開始。セラピストと看護師は車椅子で自己抜去の無いよう、安全な移乗方法やランニングチューブの管理方法を指導。さらにウロガードからの尿の破棄方法も指導しました。また、内服は看護師管理だったところを、ご本人で自己管理できるよう、1日分の薬の管理から開始し、薬カレンダーを使用し自己管理が出来るようになりました。

独居での在宅復帰に向けてケアマネはご家族とともに在宅サービス調整を図り自宅に帰ることが出来ました。在宅生活ではオアシスでの訓練が生かされ尿道カテーテルのトラブルもなく過ごされていました。

その後、筋力低下と認知力の低下があり、薬の管理が難しくなってきたこともあり令和元年10月に2度目の入所となりました。ご本人が安心して生活できるようになるためには、やはり尿道カテーテルの抜去が必要であることから、看護師は再度検討を行いました。

前回は昼前だけの膀胱訓練でしたが、今回は夜勤帯でも実施。医師は薬剤の調整を図り、セラピストは自宅生活で低下した筋力の回復のリハビリとともに、トイレ動作の評価を行いました。その後1週間ほどの評価の後、尿道カテーテルを抜去し、以後2週間評価と訓練を繰り返した結果、ほとんど残尿が無く排泄自立に成功。

コロナ禍のなかでも、元気な姿を見てもらおうと長女様に来てもらい面会。長女様も長期間使用していた尿道カテーテルが取れ元気な姿を見て感動していただきました。